

科目名	認識技術基礎						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	元田 真史
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム専攻科AIエンジニア専攻3年・情報工学科AI&IoT専攻3年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	画像認識技術の基礎となる画像処理技術について概説する。画像処理エンジニア検定ベーシックの出題範囲に準拠した内容を学習し、当該検定への合格を目指す。						
	iCDタスクコード		EX02.7.3				
授業形態	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					動画画像処理や画像符号化などの画像処理に関する手法を説明できる。	
		○				画像処理の各種アルゴリズムの処理方法を理解し、画像に適用することができる。	
	○					画像処理システムに使われるハードウェアや規格を説明できる。	
	○					画像処理システムに関連する知的財産権や情報セキュリティについて説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	『画像処理エンジニア検定エキスパート・ベーシック公式問題集 [改訂第四版]』 画像情報教育振興協会 2021						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	デジタル画像の基礎知識					
	2	座標変換					
	3	画像の濃淡変換				これまでに実施した問題を復習すること (1時間)	
	4	画像のフィルタリング処理					
	5	2値画像処理					
	6	領域分割処理				これまでに実施した問題を復習すること (1時間)	
	7	動画画像処理					
	8	画像間のマッチング					
	9	画像と空間の幾何学的関係と3次元復元				これまでに実施した問題を復習すること (1時間)	
	10	システムと規格					
	11	関連知識(知覚、知的財産権、情報セキュリティ)					
	12-14	模擬試験				間違えた問題を解きなおすこと(1時間)	
	15	総復習(期末試験対策)					
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)検定試験を受験する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		○	◎				30%
検定試験		○	◎				50%
受講状況					◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。 PCを持参すること(学校PCでも可)。						

科目名	電子回路									
科目名(英)										
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		高橋 政博	
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科AIエンジニア専攻3年・情報工学科AI&IoT専攻3年・ 情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース2年									
授業概要	電子部品の機能や回路の仕組みを理解する。回路を実際に作成して理解を深める。									
	iCDタスクコード		該当なし							
授業形態	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
		○				組込みソフトウェア開発者に必要な電子回路の基本的な仕組みを説明できる				
		○				電圧、電流の意味が説明できる				
		○				抵抗、ダイオード、コンデンサ、トランジスタの役割が説明できる				
テキスト・教材 参考図書	『キットで遊ぼう 電子回路シリーズ No.1 基本編 vol.1』 アドウィン 『キットで遊ぼう 電子回路シリーズ No.1 基本編 vol.2』 アドウィン									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1-2	キットの説明、パーツの確認、シール貼り、LED点灯・消灯								
	3-4	VR(可変抵抗器)、電気の3要素とオームの法則								
	5-6	電圧、電流、抵抗、並列回路								
	7-8	ダイオードを利用した回路1								
	9-10	ダイオードを利用した回路2								
	11-12	コンデンサ、単純CR回路								
	13-14	CR回路					ここまでの講義内容を復習すること			
	15-16	トランジスタ タイマ回路、電流増幅回路								
	17-18	トランジスタ LED調光回路								
	19-20	トランジスタ CdSセル、ダーリントン回路								
	21-22	トランジスタ DCモータ制御								
	23-24	トランジスタ マルチバイブレータ								
	25-26	トランジスタ ブロッキングオシレータ					ここまでの講義内容を復習すること			
	27-28	各種FET								
	29-30	まとめ								
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)演習課題を実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験			○				60%		
	課題提出			○				20%		
	受講状況					◎		20%		
履修上の注意										

科目名	ディープラーニング演習Ⅱ											
科目名(英)												
単位数	6単位		時間数		90時間		担当者		元田 真史			
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報システム専攻科AIエンジニア専攻3年・情報工学科AI&IoT専攻3年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース2年											
授業概要	ディープラーニングをTensorFlowやKerasを用いてPythonで実装できるスキルを身に着ける。CNNによる分類や、GANによる生成モデルを学習する。授業の後半では、実装したモデルをアプリケーションとして利用する方法を学ぶ。											
	iCDタスクコード		AI03.3.1、AI03.3.2、AI03.3.3									
授業形態	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
		○				ディープニューラルネットワークの概要を説明できる。						
		○				PythonでCNNを実装することができる。						
		○				オートエンコーダー、GANの仕組みを説明できる。						
		○				学習済みのモデルをアプリケーションから利用することができる。						
テキスト・教材 参考図書	なし											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-3	ディープラーニングの復習										
	4-6	Irisデータの分類										
	7-9	CNNの復習					ディープラーニングの講義内容ついて復習すること(1時間)					
	10-12	課題演習①／MNIST画像の分類					課題を実施すること(1時間)					
	13	オートエンコーダ										
	14-16	GAN										
	17-18	DCGAN										
	19-21	課題演習②／画像の生成					課題を実施すること(1時間)					
	22-23	Webアプリケーションによるモデルの利用①										
	24-25	Webアプリケーションによるモデルの利用②										
	26-31	課題演習③／モデルの利用					課題を実施すること(1時間)					
	32	成果発表										
	33-35	レコメンデーション機能										
	36-44	課題演習④／レコメンデーション					課題を実施すること(1時間)					
	45	総復習										
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)プログラム作成演習を実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験			◎								30%
	プログラム課題			◎								50%
	受講状況							◎				20%
履修上の注意	再試験は実施しない。 PCを持参すること(学校PCでも可)。											

科目名	制御プログラミング演習A											
科目名(英)												
単位数	6単位		時間数		90時間		担当者		浜地 啓			
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報システム専攻科AIエンジニア専攻3年・情報工学科AI&IoT専攻3年・ 情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース2年											
授業概要	機器制御に利用されるC言語の文法の理解と主な関数の使用方法を学習する。また、C言語プログラミング能力認定試験3級の問題解答やプログラミング作成演習を通して、C言語の基礎知識の定着を目指す。											
	iCDタスクコード		DV07.6.3									
授業形態	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				変数宣言、条件分岐、繰り返しを使ったプログラムを作成できる						
	○					C言語のデータ型と演算子の種類を説明できる						
テキスト・教材 参考図書	柴田 望洋 『新・明解C言語 入門編 第2版』 SBクリエイティブ、2021											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-3	概要。簡単なC言語プログラムの作成。										
	4-6	演算と型。演算子の種類。データ型の種類。										
	7-9	分岐。if文、switch文を使用した処理の分岐。										
	10-12	繰り返し。do～while文、while文、for文。単一や多重の繰り返し。										
	13-15	配列。多次元配列。配列とメモリの関係。										
	16-18	関数(1)。関数の定義と使用方法。ヘッダとインクルード。										
	19-21	関数(2)。配列の受け渡し。有効範囲と記憶域期間。										
	22-24	データ型(1)。整数型、文字型、オーバーフローと例外。										
	25-27	データ型(2)。浮動小数点型、演算と演算子。										
	28-30	関数形式マクロ、列挙、再帰、入出力。										
	31-33	文字列。文字列の仕組みと操作方法。					ここまでの範囲の復習を行う					
	34-36	演習課題(1)／プログラミング課題に沿ったプログラム作成										
	37-39	演習課題(2)／プログラミング課題に沿ったプログラム作成										
	40-42	C言語プログラミング検定3級問題(1)										
	43-45	C言語プログラミング検定3級問題(2)										
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テストを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	◎		◎								60%
	確認テスト	◎		◎				○				20%
	受講状況							◎				20%
履修上の注意												

科目名	ビジネスコミュニケーションⅢ									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		木村 浩昌	
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科AIエンジニア専攻3年・情報工学科AI&IoT専攻3年・ 情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース2年									
授業概要	ディベートの基礎知識を習得し、実習を行うことで論理的な討論技法を段階的に身につける。									
	iCDタスクコード		該当なし							
授業形態	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○					ディベートの手法を理解できる				
		○				きちんと理由、筋道をつけて自分たちの主張を相手に伝え、納得してもらうことができる				
テキスト・教材 参考図書	論理力・説得力・対人力が高まるトレーニング - ディベートの基本が面白いほど身につく本 KADOKAWA									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	第1章 ディベートの技術はこんなに役に立つ！								
	2	第2章 ディベートをやる前に知っておきたいこと(1)								
	3	第2章 ディベートをやる前に知っておきたいこと(2)								
	4	第3章 実際にディベートをやってみよう(1)					授業内容に係るレポート作成および提出			
	5	第3章 実際にディベートをやってみよう(2)					授業内容に係るレポート作成および提出			
	6	第3章 実際にディベートをやってみよう(3)					授業内容に係るレポート作成および提出			
	7	第3章 実際にディベートをやってみよう(4)					授業内容に係るレポート作成および提出			
	8	第3章 実際にディベートをやってみよう(5)					授業内容に係るレポート作成および提出			
	9	第3章 実際にディベートをやってみよう(6)					授業内容に係るレポート作成および提出			
	10	第4章 実生活に応用できるディベートテクニック								
	11	第5章 ディベート力を磨くトレーニング								
	12	総合演習(1)								
	13	総合演習(2)								
	14	総合演習(3)								
	15	総合演習(4)					授業内容に係るレポート作成および提出			
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)確認テストを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	課題レポート			◎				40%		
	確認テスト			◎				40%		
	受講状況					○		20%		
履修上の注意	再試験は実施しない。									

科目名	一般教養ⅢA						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	畠添 正和	
実施年度	2023年度		実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報工学科 3年・情報システム専攻科 3年 情報システム科アドバンスコース2年、情報システム専攻科アドバンスコース2年						
授業概要	就職筆記試験における「SPIテスト」の対策を行う。 (1)非言語(数学)分野:計算を「基本通りに行い」答えを求める手順を確認する。 (2)言語(国語)分野:出題パターンの確認及び練習問題を演習する。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				言語(数学)分野・非言語(国語)分野の問題に対して、解答を説明できること。	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職筆記試験について、SPIテキストの構成・内容の確認 数学分野(1:仕事算)					
	2	国語分野(1:二語の関係①)、数学分野(2:鶴亀算)・連立方程式の演習					
	3	国語分野(2:二語の関係②)、数学分野(3:損益算)					
	4	国語分野(3:文法)、数学分野(4:速さ・時間・距離)					
	5	国語分野(4:語句の意味)、数学分野(5:場合の数)					
	6	国語分野(5:短文の穴埋め)、数学分野(6:確率)				小テストの範囲を復習しておくこと	
	7	小テスト 国語分野1～5、数学分野(1～6)					
	8	小テスト 返却&解説&見直し				小テストの不正解の問題を見直すこと	
	9	国語分野(6:文章整序)、数学分野(7:精算と割引料金)					
	10	国語分野(7:空欄補充)、数学分野(8:分割払い)					
	11	国語分野(8:長文読解)、数学分野(19:参考問題1)					
	12	国語分野(9:参考問題)、数学分野(19:参考問題2)					
	13	数学分野(13:集合)					
	14	数学分野(15:ブラックボックス、17:物の流れと比率)					
	15	期末試験対策					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				55%
	小テスト	◎	◎				25%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	ロボット制御演習						
科目名(英)							
単位数	6単位		時間数	90時間		担当者	山下 文夫
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム専攻科AIエンジニア専攻3年・情報工学科AI&IoT専攻3年・ 情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	ロボットを制御するソフトウェアの開発をチームで行う。授業後は組込み業界でメジャーなコンテストであるETロボコン大会に出場する。チーム開発による集団でのシステム構築を通して、コミュニケーション技術と責任感を身に付ける。						
	iCDタスクコード		DV07.4.1、DV07.5.1、DV07.7.1				
授業形態	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				チームの開発作業の担当分けを行うことができる	
		○				チームの開発作業の進捗を説明することができる	
		○				ETロボコンに出場できるソフトウェアの開発を行うことができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	ETロボコン概要				過去のETロボコンの動画を見て、コース攻略のイメージを準備すること。	
	4-6	ルール確認					
	7-9	WBS作成・役割分担、スケジュール作成					
	10-12	走行体組み立て					
	13-15	要件定義／コース理解、戦略方針					
	16-18	プログラム設計、モデル図構想図					
	19-21	プログラム詳細設計、モデル図概略図レビュー					
	22-24	プログラム実装／基本走行部分1、モデル図部分作成					
	25-27	プログラム実装／基本走行部分2、モデル図部分作成					
	28-30	プログラム実装／基本走行部分3、モデル図部分作成					
	31-33	プログラム実装／難所攻略部分1、モデル図結合作業					
	34-36	プログラム実装／難所攻略部分2、モデル図レビュー					
	37-39	プログラム実装／難所攻略部分3、モデル図修正					
	40-42	テスト／走行試験				走行試験の結果を元にプログラムを調整すること。	
	43-45	学内走行会					
評価方法	(1)開発したプログラムを評価する。(2)作成したモデル図を評価する。(3)学内走行会を実施して走行完成度を評価する。(4)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	プログラム成果物		◎				30%
	モデル図成果物		◎				30%
	学内走行会		○				20%
	受講状況				○		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	エッジコンピューター演習						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	山下 文夫
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム専攻科AIエンジニア専攻3年・情報工学科AI&IoT専攻3年・ 情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	小型マイコンの使用方法を理解し、センサーなどの入出力装置を制御するプログラム開発について演習を通じて学ぶ。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○	○			小型マイコンOSのGUI操作を行うことができる	
		○				小型マイコンを使用したプログラムの開発環境及び動作環境を構築できる	
		○				小型マイコンに接続した入出力装置を制御するプログラムを開発できる	
テキスト・教材 参考図書	福田 和宏 『電子部品ごとの制御を学べる! Raspberry Pi 電子工作 実践講座 改訂第2版』 ソーテック社、 2019						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Raspberry Piとは、OSのインストール、GUI基本操作					
	2	Raspberry Piの設定				操作方法を復習すること	
	3	Raspberry PiとLED、点灯と消灯					
	4	Raspberry PiとLED、明るさ変化、半固定抵抗、PWM制御					
	5	Raspberry Piとトランジスタ、タクトスイッチ					
	6	Raspberry PiとA/Dコンバータ、可変抵抗					
	7	Raspberry PiとDCモーター、回転制御					
	8	Raspberry Piとサーボモーター、角度制御					
	9	Raspberry Piと光センサー					
	10	Raspberry Piと焦電赤外線センサー					
	11	Raspberry Piと温度センサー					
	12	Raspberry Piと加速度センサー					
	13	Raspberry Piと超音波センサー					
	14	Raspberry Piと7セグメントLED					
	15	振り返りレポート作成					
評価方法	(1)OSのGUI操作テストを実施する。(2)授業の中で課題プログラムを開発する。(3)開発作業を整理したレポートを提出する。(4)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	操作テスト		○	○			20%
	課題プログラム		○				40%
	レポート提出		○				20%
	受講状況				○		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	情報処理試験対策春対策A						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	川野 啓祐
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム専攻科3年・情報工学科3年・ 情報システム専攻科2年アドバンスコース・情報システム科2年アドバンスコース						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1～8	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				分からなかった部分の復習をしておくこと。	
	7-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				分からなかった部分の復習をしておくこと。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 (2)課題・レポートを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				55%
	課題・レポート	○	◎				25%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない						

科目名	情報処理試験対策秋対策A											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		32時間		担当者		川野 啓祐			
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報システム専攻科3年・情報工学科3,4年 情報システム科アドバンスコース2年・情報システム専攻科アドバンスコース2,3年											
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。											
	iCDタスクコード		該当なし									
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。						
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。						
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1～8	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。					
	9～16	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	○		◎								55%
	課題・レポート	○		◎								25%
	受講状況							◎				20%
履修上の注意												